夏期日本語教育報告

総　括

夏期日本語教育ディレクター
田中　和美

今年度の夏期日本語教育（SCJ）は、少なからず3月の東日本大震災及びその後の福島原子力発電所事故の影響を受けた。震災直後に、SCJを開催すべきかどうか学内で討議され、節電を考慮し人数を縮小して予定どおり開催することに決定した。結果として当初予定の120名の約半分、昨年の3分の2ほどの67名の受講生にとどまった。一方、今年度からの新たな試みとして本学の日本語教育課程（JLP）とより一層の連携を図る取り決めがなされ、講師ならびにシラバスや教材などの共有が広がった。このような背景の中、受講生たちは円高に悩まされながらも、大きな問題も起こることなく、無事6週間のプログラムを修了することができた。

今年もSCJを開催でき、成功裏に終わったことは、学内、学外の多くの方々のご支援がなければできないことであった。ここに心より御礼申し上げます。

1. 講師陣

SCJの教育の質を維持・改善し、JLPと同等の内容を提供する目的で、今年度からJLPの専任講師1名が持ち回りでSCJの授業をも担当することになった。また、教務主任及びディレクターも授業を持つこととした。さらに、JLPの非常勤講師の参加を積極的に求め、今年度は3名が加わった。震災のため、雇用する講師数を12名に抑えたが、受講生数が少なく、教務主任もディレクターも授業に入ることはなかった。12名の講師プラスJLP専任講師の1名、計13名の講師陣であった。

2. クラス編成

プログラムの縮小ということで、希望者は数名いたがC8は開講せず、またC7に該当する受講生も少なかったので、C1からC6までの開講とした。C1からC6のうち、C1のみ部分的に2セクションとした。

3. 教室、講師室など

節電のため使用教室を本館北側に限定し、7教室確保した。また、文化プログラムラウンジ、主任室も北側とした。本館の北側には、広さ、電気許容量、電源などの適切な教室がなかったので、講師室はERB2のJLP非常勤講師室2部屋を当てた。JLPの教材作成室ERB2-105および本館113の教育支援センター教材作成室を利用し、広範囲にわたる仕事場となったが、学生アルバイトの教務助手3名の助けにより、潤滑に連携できた。

4. カリキュラム

今年度は、JLPの方針に基づき、形式を統一したコースシラバス、スケジュール、評価対象などを作成し、各コースヘッドに渡した。さらに、JLP作成の教材、関連教材、過去

のテストなど、参考となるものを電子版があるものは電子版で、提供した。このように枠組みを定めることで、一定の水準を保つことができたと思われる。

5. 文化プログラム

恒例の文化プログラムが行なわれた。今年は、参加人数が限られているものには、希望者を募りくじ引きとした。おおむねうまく運営できたが、問題は参加者の無断欠席や遅刻が目立ったことであろう。パターソン文化主任の新たなアイデアで、少林寺拳法、弓道などの武道が追加された。学生アルバイトの文化プログラム助手 3 名は、受講生を温かく応援してくれた。

6. 宿舎

今年度は新しい寮、銀杏寮のみを使用した。特に問題はなかったようだ。節電の中、例年通り受講生を受け入れてくださるホストファミリーが集まったことは、ありがたいことだった。12 名がホームステイをし、貴重な経験をした。

7. その他　看護師

看護師に期間中常駐してもらった。病院への付き添いが何回かあったが、大事に至ることなく済んだ。

以上

2011 年 9 月 27 日

2011 年 ICU 夏期日本語教育　教務報告

教務主任
金山　泰子

1. SCJ 期間中のスケジュール

7 月 1 日（金）	午前　コーディネーター会議 午後　全体講師会
7 月 4 日（月）	学生登録日
7 月 5 日（火）	午前　プレースメントテスト実施、C 1 授業開始 午後　歓迎会（於：ダイアログハウス） 図書館オリエンテーション＆キャンパスツアー プレースメント判定
7 月 6 日（水）	レベル判定結果発表、授業開始 講師会（以後毎週水曜日）
7 月 8 日（金）	コース変更最終日 講師懇親会（於：アラムナイハウス）
8 月 11 日（木）	期末試験
8 月 12 日（金）	コース最終日 修了式・歓送会（於：ダイアログハウス）

2. コースについて

a. 授業時間

70 分授業を 1 日 3 コマ（第 1 週から第 3 週の木曜日は 4 コマ）及び個別指導

b. コース担当講師と学生数

コース	コースコーディネーター	ティーチングスタッフ
C 1（初級 1）	貴志佳子	渡部萌子　川口真理子
C 2（初級 2）	成永淑	小野由美子
C 3（初級 3）	保坂明香	助川愛
C 4（中級 1）	畠山衛	須田敦子
C 5（中級 2）	佐藤由紀子	前川和佳奈
C 6（中級 3）	数野恵理	谷口かおり

c. 使用教材

コース	使用教材
C 1（初級 1）	「ICU の日本語　VOL. 1」
C 2（初級 2）	「ICU の日本語　VOL. 2」
C 3（初級 3）	「ICU の日本語　VOL. 3」
C 4（中級 1）	「日本語中級 J 301」（スリーエーネットワーク）
C 5（中級 2）	「日本語中級 J 501」（スリーエーネットワーク）
C 6（中級 3）	「ニューアプローチ中上級日本語完成編」（日本語研究社）

3. 今後の課題

a. シラバス・スケジュール・教材の見直し

今年度はコース開始前にシラバス・スケジュールの雛形を示し、通常学期との連携を図った。しかしながら、通常学期もカリキュラム改革に向け過渡期にあるため、確固としたものが示せたかどうか反省が残る。カリキュラム改革を見据えつつ通常学期のシラバス・スケジュールを整備する必要がある。具体的には、成績内訳やテストの実施回数、主教材（特に中級教材）について見直しが必要であると思われる。また、これに関連してプレースメントテストの内容、判定基準についても検討されるべきであろう。

b. 教材作成室との連携

今年度は本館の教材作成室は開室時間が午前 8 時から午後 4 時半までであったが、開室時間を延長する必要があると思われる。講師が学生との個別指導を終えるのは 3 時過ぎになるため、翌日の教材の印刷業務に対応できないという支障が生じた。来年度以降に向けて、教材作成室スタッフと連携し、改善を図りたい。

c. 授業外の学習環境の整備

サマーコース期間は大学の夏期休暇中にあたるため日本人学生が不在であり、受講生が日本人学生と接触する機会が少ない。そこで今年度は授業に協力してくれる会話ボランティアに呼びかけ、授業外に数回会話セッションを設けた。来年度以降も授業外の学習環境を改善できるよう工夫し、受講生が日本に来て日本語を学ぶ意義を十分に見出せるよう努めたい。

The Culture Program: Report

Robert PATERSON, Cultural Program Director 2011

The Cultural Program (CP) component of the SCJ is an important part of the students' time in Japan as it enables the students to learn much more about Japan than just the Language. Integral to the successful running of the CP is the work done by the CP staff, ICU student volunteers, SCJ teachers and the JLP staff and teachers. Without the good work done by all the above the CP would not be able to operate efficiently and this help certainly made my job as Director of the CP much easier. As a result of this, the running of the CP this year went smoothly for the most part.

There were 12 official events organized and run by the CP, which included an outing to a Kabuki performance and a trip to the Kannon-in temple for zazen meditation practice. Also Shorinji Kempo, Kyudo and Archery were introduced for the first time this year. The official calendar has a record of the full range of events organized, and for events that had a limited number of participants, a lottery was held to determine who would attend.

The CP also ran a Student Lounge for those students attending the course. Here students interacted with CP staff, Japanese ICU students, and other SCJ students. They also bought Japanese food such as *onigiri*, snacks and drinks, signed up for events and got help with many other things related to life at ICU and Japan in general. Most students made some use of this facility but the location of the CP lounge (2nd floor) could have been closer to the classrooms (3rd floor) for easier access.

The workings of the CP Lounge and the methods for assigning students to events were based largely on the innovations started the previous year. These were again successful and the procedure should be continued next year. The major problem that recurred was the lateness and cancellation without notice by the participating students. A stronger message and firmer stance regarding punctuality and commitment need to be implemented next year.

In conclusion, this year's CP was fairly successful given the budgetary limitations the reduced attendance brought. It introduced some new events despite the limitations and this was a positive thing. These new types of events could be expanded as well as the reintroduction of events missing this year, if student numbers increase. So all in all there are many reasons to be positive about the CP for the future.

事　務　報　告

1. スタッフ

田　中　和　美	ディレクター
金　山　泰　子	教務主任
Robert PATERSON	文化プログラム主任
朝　倉　怜　子	日本語教育研究センター事務室業務担当
篠　原　将　成	オフィス・アシスタント（研究所助手）
李　　棋	オフィス・アシスタント（研究所助手）
Teneal JONES	オフィス・アシスタント（学生アルバイト）
福　代　智　絵	教務助手（学生アルバイト）
荻　野　　航	教務助手（学生アルバイト）
須　藤　　拓	教務助手（学生アルバイト）

他、教材作成室に勤務のスタッフとして、授業ヘルパー 11 名がシフト制で 1 日 2 名勤務

下　山　菜　穂	文化プログラム助手（学生アルバイト）
三　浦　基　生	文化プログラム助手（学生アルバイト）
相　原　玲　子	文化プログラム助手（学生アルバイト）

2. 講師名簿 （所属は 2011 年 4 月 1 日現在）

教務主任	金 山 泰 子	国際基督教大学　日本語教育課程　講師
C1	貴 志 佳 子	Case Western Reserve University　Lecturer in Japanese
	渡 部 萌 子	ウィスコンシン大学マディソン校 ティーチングアシスタント
	川 口 真理子	Michigan State University　Instructor
C2	成 永 淑	国際基督教大学　日本語教育課程　非常勤講師
	小 野 由美子	Western Carolina University　Instructor of Japanese
C3	保 坂 明 香	国際基督教大学　日本語教育課程　非常勤講師
	助 川 愛	Oberlin College　Lecturer in Japanese
C4	畠 山 衛	カーネギーメロン大学　第二言語習得博士課程大学院生
	須 田 敦 子	スワスモア大学　講師
C5	佐 藤 由紀子	国際基督教大学　日本語教育課程　非常勤講師
	前 川 和佳奈	ハミルトン大学　日本語教師
C6	数 野 恵 理	国際基督教大学　日本語教育課程　特任講師
	谷 口 かおり	Imperial College London; King's College London 日本語講師

3. 2011年　カルチャー　プログラム　カレンダー

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday
7/4 Registration	7/5 Placement Test, Orientation & Opening Ceremony	7/6 Classes Start Prof. Maher Lecture	7/7	7/8	7/9
7/11 Ikebana	7/12 Osawadai School	7/13 Prof. Wilson Lecture	7/14	7/15	7/16
7/18 National Holiday but Classes as usual Heian Court Music	7/19 Nihon Buyo	7/20 Kabuki	7/21	7/22 Zazen	7/23
7/25 Zori Making 1	7/26 Zori Making 2	7/27 Ghibli Museuma	7/28	7/29	7/30
8/1	8/2 Archery/ Kyudo	8/3 Shorinji Kempo	8/4 Tea Ceremony	8/5	8/6
8/8	8/9	8/10	8/11	8/12 Classes end Farewell Party	8/13 On-Campus Dorm Check-Out

4. 学生に関する統計

A．応募者内訳

応募者	179
合格者	132
不合格者	47

合格者	132
受講辞退者	65
受講者	67

B．受講者内訳

① 身分別

	男	女	計
一般学生	20	29	49
教育交流プログラム学生 *	7	11	18
合計	27	40	67

* 〈内訳〉	University of California	5	9	14
	University of Pennsylvania	1	0	1
	Pomona College	1	2	3
	合計	7	11	18

② 宿舎別

	男	女	計
自分で用意	2	7	9
ICU が用意 *	25	33	58

* 〈内訳〉	学生会館	1	1	2
	銀杏寮	17	27	44
	ホームステイ	7	5	12
	合計	25	33	58

③ 国籍

ARGENTINA	1	CANADA	3	CHINA	4
ITALY	1	JAPAN/USA	2	SINGAPORE	1
SLOVENIA	1	SPAIN	1	SWEDEN	1
TAIWAN	3	UK	2	UK/GERMANY	1
USA	45	USA/CANADA/JAPAN	1		

Total 67

5. ホストファミリー（家族数）

杉並区	4
三鷹市	5
小金井市	2
八王子市	1
合計	12